



人事担当の対応で 企業の良しあしがわかる

応募してから返信がくるまでの日数、電話やメールの言葉の端々に横柄さはないか、人事担当とやり取りを行なう際は、その対応に注目しよう。彼らは企業の縮図だ。その態度や姿勢、質問の返答から企業の本当の姿を知ることが出来る。

企業のマイナスイメージを仕入れて人事担当にぶつけてみよう

日本企業への就職について、第三回は、どうやって企業を見極めるかということだ。

まず、人事(採用)担当の態度や姿勢はその企業の縮図だと考えてください。素晴らしい風土で人を大切にしている会社なのに人事担当だけが鼻持ちならない人である可能性は低いので、逆に人事担当だけが素晴らしい、社内の雰囲気は最悪、というケースもありありません。

本当に人材を大切にしている会社は人事担当にもその理念が伝わり、応募者への対応に表れます。どんなにホームページやパンフレットが立派でも、応募から何日も返信がない、やりとりがそんなにないといった企業は、人材を大切にしているかもしれません。電話やメールの言葉の端々に「採用してやるんだ」といった横柄さが見え隠れするケースも、やめたほうがいいでしょう。

優秀な人事担当は「良い人材を見極めよう」と考えながら同時に、応募の最初の段階から応募者の「意識付け」を行おうとします。騙して入社させるのではなく、自社に合った人材を構え、マインドを持って欲しいからです。例えば



ベリタス・コンサルティング株式会社
代表取締役社長

坂尾 晃司

Koji Sakao

Profile

1989年東京大学法学部卒、(株)リクルート入社。組織人事コンサルティング室を経て独立、2000年ベリタス・コンサルティング(株)設立。組織・人事領域を中心とした経営コンサルティング活動を行っている。

不利な情報でも隠さず伝え、実態を理解させたうえで入社してもらおうとします。合わない人材を採用して退職されるより、最初から入社させない方が合理的だからです。

その意味では、あらかじめその企業のマイナスイメージ(退職率が高い、業績が伸び悩んでいる等)を仕入れて、人事担当に率直にぶつけてみるとよいでしょう。真つ正直に答え、解決のために企業が取り組んでいることを説明してくれるようであれば合格、おそらく誠実な企業だと思えます。はぐらかされたり隠しているようなニュアンスがあれば、入社後のギャップを覚悟してください。

機会があれば、説明会等だけでなく、ぜひオフィスの中を見せてもらってください。社員の表情や雰囲気、オフィスの什器や掲示物などを見れば、その会社のおおよそのところは分かります。例えばオフィスの椅子が粗悪な会社は、社員の健康を軽視している可能性が高いと言えます。机は安物でも困りませんが、椅子の質が低いと腰痛等の原因となり、生産性が落ちてしまいます。

残念ながら採用時の「お化粧」だけ上手な会社も散見されます。ぜひ本物を見抜く、眼力を身につけて、自分に合った良い企業に就職してください。

【学生の品格】

人格・風格・品格



社長のかばん持ち
インターンシップ受付中
miyahara@mediasion.co.jp
までお問合せください。
かばん持ちインターンシップについて
→http://www.91922.com/2010/

無理して着飾る必要はない ありのままの自分でいい

無理して自分を良いように見せる必要なんてない。今はまだ、品格なんてなくてもいいのだ。ありのままの自分を、包み隠さずさらけ出し、そこから成長していけばいいではないか。山近氏の生き方を見ると、人望とは、素の自分で相手に接することによって集まるものなのだ実感する。

**品格はなくても
すげえ可愛がつくれる**

人格・風格・品格

「品格」とかいうと、君はあるのかね? と、必ず聞かれます。私にあらうはすがないです。ないからこそ、格闘しているのです。成長し続けているのです。もがいているのです。3Dです。努力はしています。読書もしています。泥水も飲んでます。

「浮き上がるために、鯉のように、そりたいで、必死に、品格ある経営者たちに会っているのです。私は、ちっちゃな時に、万引きもしました。かなりの回数。覗きもしました。一度だけ。今でも酔っ払って、女子社員におしほりを投げて、怒られたり、おいたしたり、フライング発言して、新幹線品川駅で謝罪したり...」

でも、こんな俺だからこそ、すげえ、人たちが可愛がつくれるのです。周りをハラハラさせながら、困んでくれているのです。ベンチャー・大学設立などと言え、必ず、パッシングが起きることは予想されます。が、少しだけ、見守ってください。なにこそ、よろしくお願います! 3年くらいでよいです。日本の未来のために、俺のテンションを下げないでください。



株式会社ザメディアジョン
代表取締役社長兼CEO

山近 義幸

Yoshiyuki Yamachika

Profile

1961年山口県生まれ。山口県立岩陽高校卒業後、広告代理店、出版社などを経て27歳でザメディアジョンを設立。法人化と同時に就職、採用支援事業に進出。学生向けに全国で講演も行う。著書多数。08年4月、日本ベンチャー大学を開学。

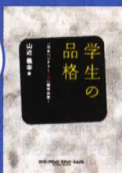
「反感」の中に、本意がある。

来期の当社の人事事業部で決行する就職イベントについて、昨日、担当の浅野に話したら、笑われました。また、社長のアホな企画でましたね...とおっ、いける!! 私、は確信しました。今まで、アホな...と言われた企画が、なぜか成功するのです。鹿児島知覧社員研修の時もそうでした。

「新人と同年代の特攻隊員が泊まれた宿に、全国の社長さんたちと新人たちで、泊まって研修するぞ! 5年後に、貸切にしたい!!」と、私が発言した時の、社員の表情は、今でも忘れられません。「.....」です。ところが、今では、1週間、本当に貸切です。富屋旅館は、別館まで建設されました。別名、ザメディアジョン別館」とまで呼ばれているようです。だから、このイベントは必ずブレイクします。もう日付まで、決定しています。2009年3月10日、開始です。

読者プレゼント

先着
10名様



ザメディアジョン
500円(税込)

日本ベンチャー大学の学長代行を務める山近義幸が開学に到る想いを熱く書き綴った1冊! ご希望の方はimamoto@mediasion.co.jpまで学校名、お名前、送付先、お電話番号をメールください。